

旅館 凌雲閣

凌雲閣は松之山温泉郷にある歴史的な旅館である。1938年に建てられた木造3階建ての本館は、2005年に有形文化財として登録された。この旅館は、当時の雪国建築を見事に保存している。3度の大地震を乗り越え、毎年豪雪の重圧に耐えてきたことを考えると、その長寿は特に印象的だ。

現在も営業しているこの宿には、多くのユニークな建築的特徴がある。建設当時、オーナーは熟練の大工たちに内装を依頼し、各自が14の客室のうちの1つを自由に任された。彼らが腕を競い合った結果、精巧な彫刻が施された欄間、組み木と呼ばれる繊細な木工細工が施された引き戸、天井に貼られた碁盤や将棋盤のような独特の装飾が生み出された。メインロビーでは、暗い色の木の床に縁起の良い形がはめ込まれている。「ふしかくし」と呼ばれるこの巧みな彫刻は、節を取った跡など板の欠点を目立たなくしている。

20世紀初頭の建築のレトロな魅力と、職人技の珍しい華やかさが、「凌雲閣」をユニークな雪国体験にしている。